

平成30年度音楽科年間計画と評価基準（1年）

	題 材	該当観点	評 価 基 準 (B:50%)
4月	『第十中学校校歌』	1・2・3	・歌詞や旋律を覚え、意欲的に歌唱表現している。
	楽典1	1・3	・階名、低音部記号等の基礎知識を理解する。
	混二『朝の風に』	1・3	・頭声発声のしくみを理解して歌唱することができる。 ・変声期について、正しい知識を得て、歌唱課題に応用できる。
5月	混三『夢の世界を』	1・2・3	・複合拍子の特徴を理解し、歌唱表現を工夫することができる。 ・ユニゾンと和声の違いを理解し、感受しながら歌唱することができる。 ・指揮法の基礎を理解し、実践することができる。
	『春』	1・4	・バロック音楽や楽曲の様式、弦楽器・古楽器の特徴を理解する。 ・根拠をもった批評（感想文）ができる。
	楽典2	1・3	・音符や休符の長さを理解し、簡単なリズムを作ることができる。
6月	『合唱コン課題曲』	1・3	・自パートを旋律を歌うことができる。
	アルトリコーダー	1・2・3	・導入（楽器の扱い方・音階・基礎曲の演奏）段階の理解。
	合唱曲の比較と選曲	1・4	・楽曲の特徴を感じ取り、比較して鑑賞・客観的分析ができる。 ・自クラスに適した楽曲を選択することができる。
7月	『合唱コン課題曲』	1・2・3	・① 三部合唱の基礎として、声部の役割を意識して合唱できる。 言葉の発音、旋律の流れ、リズム、拍節感を意識して歌唱できる。
	アルトリコーダー	1・3	・数小節の平易な楽曲を演奏できる。
	楽典3	1	・音楽を特徴づける要素（調性・速度・音程・強弱等）の理解。
9月	『混声三部合唱』	1・2・3	・② 正しい発声を意識して、意欲的に取り組む。 声部の役割を理解して、合唱できる。 及び①
10月	『合唱コン課題曲』	1・2・3	・①及び②
	『混声三部合唱』	1・2・3	・テクスチャや和声を感じとりながら、歌唱表現を工夫する。
	合唱コンクール	1・4	・他のクラスの発表に対し、テクスチャやハーモニーを感受して鑑賞する。
11月	『赤とんぼ』	1・2・3	・日本語の情感を感受し、言葉を生かして歌唱表現できる。 ・旋律の抑揚を意識して歌唱できる。
	『六段の調』	1・2・3 4	・平調子の構成を理解し、調弦できる。 ・『六段の調』の初段冒頭部分、『さくらさくら』を箏で演奏できる。 ・日本音楽の歴史の概略を理解する。
	アルトリコーダー	1・2・3	・正確なリズム、適切な運指、速度で演奏できる。
12月	『浜辺の歌』	1・2・3	・複合拍子の特徴を理解し、歌詞の流れにのった歌唱ができる。 ・情景を想像して、適した歌唱表現を工夫できる。
	『卒業式歌』等	1・2・3	・①及び②
	アルトリコーダー	1・2・3	・正確なリズム、適切な運指、速度で演奏できる。
1月	『日本の民謡』 『アジアの諸民族の音楽』	1・4	・音楽の特徴をその背景となる文化・歴史や他の芸術と関連付けて鑑賞することができる。 ・アジア諸国の音楽や楽器の特徴を比較して鑑賞できる。
	『卒業式歌』等	1・2・3	・①及び②
	2月	『卒業式歌』等 『魔王』	1・2・3 1・4
3月	『混声三部合唱』	1・2・3	・①及び②
	『卒業式歌』等	1・2・3	・①及び②
	アルトリコーダー	1・2・3	・基礎的奏法を理解して演奏できる。

歌唱教材『混声三部合唱』・器楽教材は、生徒の習熟状況に応じて適宜定める。

平成30年度音楽科 1年音楽評価規準

		評 価 規 準		
		観 点 1	観 点 2	観 点 3
表 現	歌 唱	①歌詞の内容や曲想、曲種に応じた発声や言葉の表現、声部の役割等に関心を持ち、歌唱や合唱の表現をすることに意欲的である。 ②合唱練習において、より質の高い合唱を作り上げることに意欲があり、協力し、練習することができる。	①音色、リズム、速度、旋律、テクスチャ、強弱、形式、構成などの、音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を理解し、それらの働きを生み出す特質や雰囲気を感じ受すること。 ②声部の役割やテクスチャを知覚し、全体の響きに応じた歌唱や合唱を工夫できる。 ③歌詞の内容や言葉の特徴、曲想を感じ受し、表現を工夫できる。 ④自分なりの表現を創意工夫できる。	①観点2—①で感受したものを、適切に歌唱に生かして表現できる。 ②ユニゾンと和声の違いを理解し、声部の役割と全体の響きに応じた歌唱をする技能を身に付けている。 ③曲種に応じた発声で歌唱できる。
	器 楽	①楽器の基本的奏法や楽器の音色、声部の役割、全体の響きに関心を持ち、器楽や合奏をすることに意欲的である。	①音楽の構成要素や表現要素を知覚し、曲想や曲種に応じた奏法の効果を感じ取り、工夫できる。 ②声部の役割や全体の響きを感じ取り、表現を工夫できる。	①楽器の特徴を理解し、基本的奏法を身に付け、音楽の構成要素や曲想・曲種に応じた器楽表現をする技能を身に付けている。 ②声部の役割に応じた合奏をする技能を身に付けている。
	創 作	①表現したいイメージや曲想、様々な音素材に関心を持ち、歌詞や楽器に合った旋律を作ったり、自由な発想で表現（即興）することに意欲的である。	①表現したいイメージや曲想を持ち、音素材の特徴を感じ取り、反復、変化、対照などの構成を工夫して創作できる。 ②言葉や音階などの特徴を感じ取り、表現を工夫して簡単な旋律を作ること。	①歌詞や楽器に合った旋律の創作表現をする技能を身に付けている。表現したいイメージや曲想を、様々な音素材を用いたり、速度や強弱による曲想の変化を感じ取って表現する技能を身に付けている。 ②言葉や音階などの特徴を生かした簡単な旋律を作ることができる。
鑑 賞	<p>観点4</p> <p>①声や楽器の音色、リズム、旋律、和声を含む音と音との関わり合い、形式、速度、強弱等、それらによって生み出される楽曲の雰囲気や曲想を感じ取って聴くこと。 ②曲想の変化や雰囲気を感じ取って聴くこと。 ③我が国及び諸外国の音楽の特徴、特有の楽器の特徴、特有の奏法（唱法）、表現の特徴、背景となる文化・歴史・多様性を感じ取って聴くこと。</p>			
<p>1, 表現教材（歌唱・器楽）は、生徒の習熟度に応じて適宜定める 2, 全ての単元において、毎時重複指導を行う。</p>				
<p>各観点の重み付け                  観点1 25%      観点2 25%                  観点3 25%      観点4 25%  <b>全学期を通じて実技が重視されます。</b>      実技テストは学期に1～2回（歌唱・器楽の両方またはどちらか）</p>				
<p>評価のための資料</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業中の課題への取り組み状況</li> <li>・プリント課題      ・ワーク提出      ・実技テスト（歌唱・器楽）      ・定期考査</li> </ul>				

平成30年度音楽科年間計画と評価基準（2年）

	題 材	該当観点	評 価 基 準 (B:50%)
4月	『第十中校歌』	1・3	・頭声発声のしくみを意識して歌唱できる。
	『合唱コン課題曲』	1・2・3	・自パートをの旋律を歌唱することができる。
5月	『合唱コン課題曲』	1・2・3	・言葉の発音、旋律の流れ、リズム、拍節感を意識して歌唱できる。
	『夢の世界を』	1・2・3	・混声三部合唱の特徴を理解し、歌唱することができる。
	『フーガト短調』	1・4	・多声音楽の特徴を理解して鑑賞できる。 ・パイプオルガンの特徴を理解できる。
	リズム学習	1・2・3	・身近な単語を音符に置き換えることができる。
6月	『夏の思い出』	1・2・3	・表現記号 (rit. a tempo フェルマータ) を理解して、歌唱に応用できる。 ・情景を想像して、適した歌唱表現を工夫できる。
	『合唱コン課題曲』	1・2・3	・混声三部合唱の声部の役割を意識し、全体に調和させて合唱できる。
	アルトリコーダー	1・3	・導入（楽器の扱い方・音階・基礎曲の演奏）段階の理解。
	合唱曲の比較と選曲	1・4	・楽曲の特徴を感じ取り、比較して鑑賞・分析できる。
7月	『合唱コン課題曲』	1・2・3	・言葉の発音、旋律の流れ、リズム、拍節感を意識して歌唱できる。
	アルトリコーダー	1・2・3	・基礎的奏法を理解し、平易な楽曲を演奏できる。
9月	『混声三部合唱』	1・2・3	・各声部の重なり等、役割を意識して合唱できる。
	『合唱コン課題曲』	1・2・3	・細かい表現の工夫を意識して合唱できる。
10月	『合唱コン課題曲』	1・2・3	・合唱コンクールに向けて、積極的に参加・協力し、意欲的に取り組む。
	『混声三部合唱』	1・2・3	・① 声部の役割を理解して、合唱できる。 ・言葉の発音、旋律の流れ、リズム、旋律の流れ、テクスチュア、拍節感を意識して歌唱できる。 ②歌詞の意味や作曲家が表現しようとする内容を考えて歌唱することができる。
	合唱コンクール	1・2・3 4	・クラスで協力し、より質の高い合唱曲を創り上げる努力をする。 ・他のクラスの発表を、音楽的内容を理解して鑑賞し、客観的に批評できる。
	アルトリコーダー	1・2・3	・基本的奏法を理解して演奏することができる。
11月	アルトリコーダー	1・2・3	・基本的奏法を理解し、平易な楽曲を演奏することができる。
	『交響曲第5番ハ短調』	1・4	・古典派の交響曲の構成や、オーケストラで使用される楽器の特徴を理解して鑑賞することができる。
	リズム学習	1・2・3	・楽曲の中の多種のリズムを理解して演奏することができる。
12月	『卒業式歌』	1・2・3	・自パートの旋律を理解して歌唱できる。
	『荒城の月』	1・2・3	・楽曲の背景を学び、歌詞の情感を味わいながら歌唱できる。
1月	『卒業式歌』	1・2・3	・①及び②
	『勸進帳』	1・4	・日本の伝統芸能に親しみ、その良さを味わって鑑賞することができる。 ・日本音楽の歴史の概略を理解することができる。
	アルトリコーダー	1・2・3	・基礎奏法を理解し、平易な楽曲を演奏することができる。
2月	『日本の郷土芸能』	1・4	・音楽教育の黎明期と、その後の発展の概略を理解することができる。
	『世界の諸民族の音楽』	1・4	・滝廉太郎の音楽の特徴や、日本音楽の特徴を理解することができる。
	『卒業式歌』	1・2・3	・①
	『アイダ』	1・4	・オペラに親しみ、その音楽を味わいながら鑑賞することができる。 ・総合芸術としてのオペラの特徴を理解することができる。
3月	『卒業式歌』	1・2・3	・①及び②
	アルトリコーダー	1・2・3	・基礎奏法を理解し、平易な楽曲を理解することができる。

歌唱教材・器楽教材は、生徒の習熟状況に応じて適宜定める。

平成30年度音楽科 2・3年音楽 評価規準

		評 価 規 準		
		観 点 1	観 点 2	観 点 3
表 現	歌 唱	①歌詞の内容や曲想、曲種に応じた発声や言葉の表現、声部の役割等に関心をもち、曲に相応しい歌唱や合唱の表現をすることに意欲的である。 ②より質の高い合唱を作り上げるために、意欲的に取り組む。 ③音楽を形づくっている要素とそれらの働きを表す用語や記号などについて、歌唱活動を通して理解する。	①歌詞の内容や曲想を味わい、曲にふさわしい表現を工夫できる。 ②音色、リズム、速度、旋律、テクスチャ、強弱、形式、構成などの音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を受感できる。	①観点2—②の要素とそれらの働きを表す用語や記号などについて、理解して歌唱できること。 ②曲種に応じた発声や言葉の特性を理解して、それらを生かして歌唱できる。 ③声部の役割と全体の響きとの関わりを理解して、表現を工夫しながら合唱できる。
	器 楽	①楽器の特徴を生かして表現を工夫し、音色、声部の役割、全体の響きに関心をもち、曲にふさわしい器楽や合奏をすることに意欲的である。 ②音楽を形づくっている要素とそれらの働きを表す用語や記号などについて、器楽活動を通して理解する。	①音楽の構成要素や表現要素を知覚して工夫できること。 ②曲想を味わい、曲にふさわしい表現を工夫して演奏すること。	①観点2—①に沿って演奏できること。 ②楽器の特徴を理解し、基礎的な奏法を生かして演奏すること。 ③声部の役割と全体の響きとの関わりを理解して、表現を工夫しながら合わせて演奏すること。
	創 作	①表現したいイメージや曲想、様々な音素材に関心をもち、歌詞や楽器に合った旋律を作ったり、自由な発想で表現（即興）することに意欲的である。	①言葉や音階などの特徴を生かし、表現を工夫して旋律を作成すること。 ②表現したいイメージをもち、音素材の特徴を生かし、反復、変化、対照などの構成や全体のまとまりを工夫しながら、音楽を作成すること。	①観点2の内容に沿って創作できること。
鑑 賞	<p>観点4</p> <p>①音楽を形づくっている要素（リズム、旋律、和声を含む音と音との関わり合い、速度、強弱）や楽曲構造と曲想との関わりを理解して聴き、根拠をもって批評でき、音楽のよさや美しさを味わうこと。 ②音楽の特徴をその背景となる文化・歴史や他の芸術と関連付けて理解して、鑑賞すること。 ③我が国や郷土の伝統音楽及び諸外国の様々な音楽の特徴から音楽の多様性を理解して、鑑賞すること。</p>			
<p>1, 教材（歌唱・器楽）は、生徒の習熟度に応じて適宜定める。 2, 全ての単元において、毎時重複指導を行う。</p>				
<p>各観点の重み付け</p> <p>2年 観点1 25%      観点2 25%       観点3 25%      観点4 25%</p> <p><b>全学期を通じて実技が重視されます。</b>      実技テストは学期に1～2回（歌唱・器楽の両方またはどちらか）</p>				
<p>評価のための資料</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業中の課題への取り組み状況</li> <li>・プリント・ノート等の提出物</li> <li>・実技試験（歌唱・器楽）</li> <li>・定期考査</li> </ul>				

平成30年度音楽科年間計画と評価基準（3年）

	題 材	該当観点	評 価 基 準 (B:50%)
4月	『夢の世界を』	1・2・3	・混声三部合唱の各声部の役割を理解して全体の響きに調和した合唱をすることができる。
	アルトリコーダー 『大地讃頌』	1・2・3 1・2・3	・基礎奏法を理解して、演奏できる。 ・自パートの旋律を理解して歌唱できる。
5月	『大地讃頌』	1・2・3	・混声四部合唱の特徴や声部の役割、構成を理解して歌唱できる。
	音楽鑑賞教室	1・4	・オーケストラの響きの美しさを感じ、鑑賞曲の特徴を理解する。 ・弦楽器、木管楽器、金管楽器、打楽器それぞれの特徴を理解する。 ・演奏会鑑賞のマナーを理解し、意欲的に鑑賞できる。 ・感受したことを、文章に表現できる。
	アルトリコーダー 『花』	1・3 1・2・3	・発展的奏法で履修曲を演奏できる。 ・情景を思い浮かべながら、言葉を大切にして歌唱することができる
6月	『合唱コン課題曲』	1・2・3	・曲中の各要素（ハーモニー・強弱のバランス等）
	合唱曲の比較と選曲	1・4	・楽曲の特徴を感じ取り、比較して鑑賞・分析できる。 ・自クラスの特徴を考えて選曲できる。
	アルトリコーダー	1・3	・発展的奏法で履修曲を演奏できる。
	音楽史	1・4	・西洋音楽史の流れについて理解することができる。 ・我が国の音楽と西洋音楽のとのかかわりを歴史を通して理解することができる。
7月	『合唱コン課題曲』	1・2・3	・言葉の発音、旋律の流れ、リズム、拍節感を理解して歌唱できる。
	アルトリコーダー	1・2・3	・様々な奏法を理解し、中程度から高程度の楽曲を演奏できる。
9月	『合唱コン課題曲』	1・2・3	・細かい表現の工夫や曲の内容分析に取り組むことができる。
	『混声三・四合唱』	1・2・3	・自パートの旋律を理解して歌唱できる。
10月	『合唱コン課題曲』 『混声三・四部合唱』	1・2・3	・混声四（三）部合唱の各声部の役割を理解して全体の響きに調和した合唱ができる。 ・曲想や拍節感を感じ、それを生かした歌唱ができる。 ・楽譜上の様々な音楽要素（リズム・旋律・強弱等）を正確に表現できる。 ・テンポや曲想の変化に対応して歌唱できる。 ・細かい表現の工夫や曲の内容分析を考えて歌唱できる。
	合唱コンクール	1・2・3 4	・クラスで協力し、より質の高い合唱曲を創り上げるよう努力をする。 ・他クラスの発表を、楽曲の内容に基づいて鑑賞、根拠をもって批評できる。
11月	平調『越天楽』	1・4	・日本の伝統芸能に親しみ、その良さを味わって鑑賞することができる。 ・雅楽の成立過程や舞台の特徴を理解する。
	アルトリコーダー	1・2・3	・発展的奏法で中程度から高程度の楽曲を演奏できる。
12月	『卒業式歌』	1・2・3	・自パートの旋律を理解して歌唱できる。
	著作権について	1	・著作権のルールは、新たな創造を生み出すためのしくみであることを理解することができる。
	『大地讃頌』	1・2・3	・7楽章全体の構成を理解し、第7楽章の適切な歌唱を工夫できる。
1月	『卒業式歌』	1・2・3	・言葉の発音、旋律の流れ、リズム、拍節感を理解して歌唱できる。
	『世界の諸民族の音楽』	1・4	・世界各地緒音楽に触れ、その良さを味わって鑑賞することができる。
2月	『卒業式歌』	1・2・3	・無伴奏で正しく音程をとりながら歌唱できる。
	『ポピュラー音楽』	1・4	・音楽の特徴をその背景となる文化・歴史や他の芸術と関連付けて理解して、鑑賞することができる。
3月	『大地讃頌』	1・2・3	・頭声発声など、3年間の学習の集大成として、応用させて合唱できる。
	『卒業式歌』	1・2・3	・卒業式に向けて、3年間の学習内容を応用させて合唱できる。
	『大地讃頌』	1・2・3	・三送会に向けて、学年全体で調和させながら合唱できる。

歌唱教材・器楽教材は、生徒の習熟状況に応じて適宜定める。